北から南から

レック株式会社の取組

レック株式会社　管理本部　安倍 正美

平成23年３月11日、東日本大震災が発生しこれに伴って大津波が発生しました。テレビやインターネットで繰り返し流されたその際の画像は、にわかには信じ難いほどの規模と破壊力を我々に見せつけました。

レック株式会社の本社は東京ですが、事業所は九州から北海道まで広く存在しており、中でも静岡県榛原郡吉田町の事業所は海岸線から700メートルしかなく海抜も４メートルほどで近隣に避難できる建物はありません。そこに５棟の物流センターや工場が集中し、200名を超える従業員が働いています。

当社の創業者である現代表取締役会長青木光男は大震災に伴う津波の画像を見た瞬間、自然の驚異に改めて驚愕し吉田町の従業員を絶対に守らなければならないと決意してその具体的方策の検討を開始しました。そして一週間後には設計事務所と、物流センターの機能を備えた避難ビルを建設するための打合せに入りました。

５棟の既存施設のどの位置に建設するのが適切なのか、強度はどの程度のものが必要なのか、高さは、広さは、給排水は、食品等の備蓄場所は、階段の角度や広さは等。様々な要件をその当時収集できる限りの情報を基に検討し、９月には設計図面が完成しました。

そして翌々月には建築業者と契約を締結し12月に着工できる運びとなりました。

建築概要は次のとおりです。

①	名　　称	レック株式会社第５倉庫（通称：吉田防災倉庫）		
②	仕　　様	鉄筋コンクリート造４階建て		
③	各階床面積	１階	1,553.81㎡（470坪）庇入	階高 0.75m
		２階	1,350.80㎡（409坪）	階高 7.95m
		３階	1,215.00㎡（368坪）	階高15.15m
		４階	242.96㎡（ 74坪）	階高22.55m
			（３，４階屋上）1,182㎡	階高26.30m
		合計	4,362.08㎡（1,320坪）	
④	給水タンク	１階階段下に非常用給水タンク（6,000ℓ）		
⑤	放送設備	全館に緊急地震速報受信放送設備設置		
⑥	備蓄倉庫	４階部分に30坪程度		
⑦	屋上	ヘリコプターによる緊急救助用スペースを確保		
⑧	その他	建築総重量13,000ｔを支える高支持力認定工法の、杭Ｌ＝11mを115本打ち込み建築基準法の基準の1.5倍以上の強度を有する建物として設計。（予想される東海地震の県の避難施設の基準と同程度）		

レック株式会社 第５倉庫（通称：吉田防災倉庫）

津波が押し寄せた際建物への圧力が軽減されるよう海に向けて舳型の形状としました。真上から見ると船のような形をしています。

この地域は東海地震による津波は最大８メートル程度であるとの予測がされていますが、想定外の事態も考慮し22メートル以上の高さを確保しました。

また、当社の従業員専用の避難施設とはせずに、万が一の場合近隣の方が広く利用できるよう配慮しております。

大勢の方が同時に逃げ込んでも混乱が最小限で済むよう、避難階段の幅を可能な限り広く（約２間）取りました。又、屋上も一時避難であれば1,000名程度の方が収容できるような広さを確保しました。食料品は500名の方が５日程度過ごせるだけの量を備蓄しています。

建物の落成式を行った当日、吉田町と「津波発生時における緊急避難場所としての使用に関する協定書」に調印し、その後、毎年３回程度地域住民の方と合同の避難訓練を実施しています。又、当社の営業時間外に震災が発生することも考慮し、避難階段に通じるドアの合鍵を10個作成し、地域の組長のお宅に置かせていただいております。

避難施設を作ったからといっても家屋その他の財産を守ることはできませんが、最も貴重な命を守ることには大きく貢献できると考えております。命さえ奪われなければ、いくらでも再起の道が開けます。

当該施設は普段は物流センターとして利用していますが、実は会社で最も使いにくい物流センターと言われています。それは避難ビルとしての機能を最優先して設計したためで日々ここで作業している従業員には誠に申し訳ない仕様となってしまいました。それでも絶対に必要な施設であることは間違いないと信じて、安全機能をもっともっと充実させていきたいと考えています。